

幸 40th



幸区誕生40周年記念誌

幸区誕生40周年記念誌

語り継ぐさいわい

さいわいの今・未来

さいわいの今・未来

語り継ぐさいわい



川崎市幸区役所



幸40th - 幸区誕生40周年記念誌 -

語り継ぐさいわい さいわいの今・未来

目次

- 2 はじめに
- 4 **1章** さいわいってどんなまち？
変化する／緑あふれる／下町的／水のまち／
ハイテク／歴史ある／活動的
- 18 **コラム1** 幸区を知ろう！（幸区の基本情報）
- 19 **2章** さいわいの今・昔
加瀬山から始まった／寺社にまつわる物語／
ニヶ領用水の誕生／大規模工場の進出／
変貌を遂げる幸区／おすすめ図書館の紹介
- 45 **3章** 世代別に見たさいわい
子どもころのさいわいの宝物
変わりゆく風景と遊び
子どもころの宝物マップ
未来に残したいこと 若い世代に伝えたいこと
後世に語り継ぐ戦争の記憶
- 56 **コラム2** 幸区の子どもたちが学ぶ地域のこと
- 57 **4章** さいわいトリビア！
- 62 **5章** みんなでつくるわがまちさいわい
商店街／福祉／子ども／緑と水／文化・スポーツ／安全・安心
- 73 おわりに
- 74 **資料編**
統計データから見るさいわい
さいわいの略年表
「さいわい歴史ガイドマップ」のご紹介

平成22年度に撮影された川崎駅周辺の様子
【出典】平成22年度 川崎市空中写真測量成果（斜め写真）



はじめに

幸区誕生40周年記念誌発刊に際し



幸区ふるさと編集委員会
委員長 野口始男

私たちの住む幸区は、昭和47（1972）年4月1日に、川崎市の政令指定都市移行に伴って、五つの区の一つとして誕生し、この平成24（2012）年4月に区制40周年を迎えます。これを記念して本誌を発刊しました。

幸区は、この40年間で、劇的な変化を見させていただきました。江戸時代から続いた、水と緑に恵まれた農村地帯を脱し、工場が盛んに進出するのにならび、農地の宅地化が進み、勤労者世帯が急増し、地域のそここに商店が建ち並び、活気あるまちづくりがなされました。しかし、市民にとって深刻な、いわゆる「川崎公害問題」が起き、国の政策の後押しもあり、工場が川崎から他都市へ転出していきました。その跡地に高層集合住宅が林立し、一時減少した住民が急増し、新たな地域コミュニティが数多く生まれました。

本誌編集にあたっては、多様な住民の要望にこたえて、地域の特性を掘り起こし、新たな若々しいエネルギーをも吸収し、明日への躍進を期し、「このまちに住んで良かった」と幸区に愛着の念を深くしていただくことを念願しています。終わりに、本誌編集発行にあたり、町内会・自治会、商店街、区内諸団体をはじめとして、ご協力いただきました全ての皆さまに、心から感謝申し上げます。

記念誌が紡ぐ新しい絆に期待して



幸区長 森下 和子

幸区は、この十数年間で大型共同住宅が次々と建設されるなど、急速に街の様相が変化してきました。新たに幸区民となられた方々も多く、少子高齢化や核家族化の進行などと相まり、地域コミュニティの形もまた様変わりしてきました。

そのような中、幸区が誕生して40周年の節目を迎えるにあたり、区の歴史や人々の記憶を後世に伝えていく必要性を強く感じました。この間、区民の方で構成する「幸区ふるさと編集委員会」の皆さまに過去の記憶を集め、保存・継承していく作業を行っていただきおりましたが、このたび「幸区誕生40周年記念誌」をお届けできることとなりました。

この記念誌が、幸区の昔と今を知っていただき、また、未来へ想いを馳せ、地域の中で話題にしたいなど、新たな交流やコミュニティづくりのきっかけになれば幸いです。記念誌は、さまざまな内容でまとめた章立てになっておりますので、世代を超えて楽しく読んでいただけたらと思います。多くの皆さまにお手に取っていただきたいと存じます。幸区に対する想いは、お一人お一人違うと思いますが、今後とも、幸区に住んで良かったと思っていただけよう、魅力あるまちづくりを進めてまいりますので、より一層のご支援、ご協力を賜りたいと存じます。



小倉在住 南野さん一家



北加瀬在住 酒井さん



南加瀬在住 橋本さん一家



塚越在住 おくつさん



小向西町 清野さん



戸手本町在住 松下さん一家



南加瀬在住 鈴木さん一家



河原町在住 海老原さん



神明町在住 橋本さん

1章 さいわいって どんなんまち

幸区って どんなんイメージ?



南幸町在住 小川さん



北加瀬在住 大野さん
区外在住 住吉さん
鹿島田在住 大塚さん



柳町在住 石井さん



古市場在住 森川さん一家



下平間在住 中西さん一家



小向西町在住 田口さん



新川崎在住 山田さん一家



古市場在住 天光さん夫妻

「幸区を一言で表すと、どんなまち？」

というアンケートを実施しました。

多くの幸区の皆さまにご協力いただき、のべ621人、一人につき3つまでの回答で、合計1447のご意見をいただきました。

第1章ではこれらのご意見を基に、右のグラフのようにテーマ別に今の幸区を表しました。それぞれのテーマに応じた各地区の施設やイベントの紹介を見ながら、「今の幸区」がどんなまちなのか探っていきましょう！

皆さまからいただいた意見を基に7つのテーマに分類しました。
※グラフの下はアンケート回答の一部です。

変化する **527**

新しいまち/住みやすい/工場からマンションへ/発展/交通の便が良い/高級住宅/再開発/便利/なんでもそろそろ/人口増加 など

緑あふれる **220**

動物公園/加瀬山/自然がある/緑が多い/自然と共存/虫取り/公園/大切な遊び場/子育てしやすい など

下町的 **179**

下町的/気さくなまら/新旧混合/庶民的・人情がある/近所付き合い/人との関わり/古い町なみ/各神社の祭礼 など

水のまち **116**

川沿いのまち/川に囲まれたまち/多摩川/環境が良い/川沿い歩き/遊び場/サイクリング など

活動的 **91**

文化的/音楽のまち/イベントが多い/ふれあいのまち/子育てしやすい など

ハイテク **43**

ハイテク/先端技術の発信/工業/中小企業/元工業地帯 など

歴史ある **35**

古いものがある/歴史がある/墨田知新/古橋/郷土史 など

※スケッチブックをお持ちの方々は、「秋の動物園まつり」「幸区民祭」「茶話会」で撮影にご協力いただきました。

変化する。

ミュージア川崎 / ミュージア川崎シンフォニーホール

「ミュージア川崎」は平成14(2002)年、大宮町旧国鉄跡地にできた複合ビルで、川崎駅西口開発の最初のランドマークとして誕生しました。

「ミュージア川崎シンフォニーホール」は川崎市制80周年の平成16(2004)年7月1日、「音楽のまち・かわさき」のシンボルとして、ミュージア川崎内に開館しました。本市フランチャイズオーケストラの東京交響楽団をはじめ、国内外の著名なオーケストラや音楽家が演奏するなど、国際的にも高い評価を得ています。



鹿島田駅・新川崎駅周辺地区

日立製作所や東芝タンガロイ、新鶴見操車場の跡地を利用した、昭和の終わりから始まった大規模な開発によって生まれ変わった、幸区の新たな拠点の一つです。



川崎駅西口駅前広場 (あしあわせひろば)

広場の中心には旧国鉄煉瓦倉庫をテーマにしたオブジェがあり、幸区のシンボルマークをデザインしたモニュメントも設置されています。住む人・訪れる人が、この広場で出会い、幸せを感じてもらいたいと、愛称も付けられています。



ラゾーナ川崎プラザ

川崎駅西口の東芝堀川町工場跡地に、平成18(2006)年に開業した、大型商業施設です。幸区だけでなく、川崎市全体にとっての新たなランドマークとして、連日多くの人々が来訪し、賑わいを見せています。



ソリッドスクエア

堀川町でのかわさきテクノピア第2期事業の一部として、明治製菓工場跡地に建てられた、オフィスや商業施設の複合ビルです。川崎駅まで伸びる桜並木は、ぜひ訪れたい春の名所です。



大きく変貌する幸区の街並み

明治後期ごろから、長く工業都市として栄えてきた幸区ですが、区制が敷かれて以降は、国内の経済活動の成熟化や社会情勢の変化に感じ、その環境を徐々に変えていきました。工場の区外移転などにより、工場跡地開発が積極的に進められ、大規模な集合住宅やオフィスビル、商業施設が新たに誕生しました。再開発による川崎駅西口の劇的な変化は、区民の方々にとっても大きな生活環境の変化につながったようです。アンケートの回答では特に「ラゾーナ川崎プラザ」という意見が多く、「便利になって何でも揃うようになった」「区外からの訪問客がかなり増えた」「幸区のイメージを変えた」といった意見もありました。一方で、このような開発によって、地元的生活への影響も出てくるため、地域の絆をいかに残し、将来へと継続していくかに言及している回答もありました。

幸区のこれからの変化は、こうした新旧の繋がりをどのように捉え、よい方向へと進めていくのか、区民一人一人が考えることから始まるのかもしれない。

幸区ふるさと編集委員会より

「利便性」は都会が圧倒的に優れていますが、地方や地域にはそれぞれの「面白さ」があります。幸区はこの両面を持ったまちです。この記念誌を開き、幸区の面白さや魅力に、誰よりもまず地元の方に気づいていただきたいと思います。そして新しく住人となられる方々にも、幸区を選んで良かったと感じていただきたいです。

緑あふれる。

加瀬山

平坦な幸区の中で、ひょっこりと小高い山で、長さ約750メートル、幅約150メートル、標高は約35メートルあります。かつては東京湾まで一望できました。緑豊かなこの山には、動物公園や大きな広場のある公園、寺社や古墳群など、区民から愛されるさまざまなスポットがあります。



さいわい緑道（川崎河岸線跡地）

矢向駅から多摩川のほとりの川崎河岸駅までつながっていた、南武鉄道「川崎河岸線」の跡地に整備された緑道です。地域の方々による手入れが行き届いており、気持ちよく散歩できるスポットです。



幸区役所前庭

区役所を訪れる人々にとっての憩いの場になることを目指して、区民ボランティアとともに、花壇やプランターに花を植えています。秋には寄せ植え講習会や花苗の配布などを行う「あおぞら花市」を開催し、区民が交流する場にもなっています。



小倉緑道（小倉用水跡地）

加瀬山の東山麓からの流入などでできた小倉池に、ニヶ領用水から分流された農業用水が通じ、小倉用水と呼ばれるようになりました。穀倉地帯であった小倉は、この用水路によって支えられていました。小倉用水跡地に整備されたのが、現在の小倉緑道です。



南河原公園

都町にある、ジョギングコースや、水遊びができるせせらぎなどがある、憩いの空間です。舟型の巨大遊具「なかよし丸」は、親たちの世代から親しまれた、この公園のシンボルです。こども文化センターがすぐ近くにあるなど、子どもたちも安心して遊べる環境です。



夢見ヶ崎動物公園

アンケートの「緑」に関連した回答の中で、一番多くの支持を集めたのが、この動物公園でした。市内唯一の動物公園であり、豊かな緑に囲まれながら、かわいい動物たちを見ることができ、休日には多くの人々で賑わいを見せる人気スポットです。



身近な憩いの場として昔から幸区民の心を潤す「加瀬山」と「夢見ヶ崎動物公園」は、アンケートの回答でも多くの方から支持された、幸区の緑のシンボルです。「南河原公園」や「さいわい緑道」なども、四季折々の風景の中を散策できる場所といった意見が多く寄せられました。

一方、緑環境が少ないことを気にかける意見もありました。川崎市の中では比較的緑の面積が少ない区であり、次の世代に幸区を受け継いでいく上で、緑豊かな環境を形成していく必要があります。

幸区役所前庭で毎年行われている「あおぞら花市」や、新川崎の「さいわいふるさと公園」などの各地の公園や緑地で、緑に触れる機会づくりなどを行い、大人から子どもまで、自然に触れられる場を増やしています。このような場面づくりを行うことで、将来にわたって緑や自然を大切にする芽を育む、一つのきっかけになるのかもしれない。

加瀬山を始めとした憩いの場

幸区ふるさと編集委員会より 多摩川の河川敷や緑地も含めた、幸区の緑の割合は、川崎市7区の中では、低い数字になっています。身近な緑を愛する姿勢とともに、この事実にも目を向け、行政・区民を含めて、区内の公園・庭・軒先・家屋側面など、さまざまなところで緑化の検討をし、区全体で考えていくことが、より重要になっていくと思います。